情報デザイン科**学科だより**
Information Design Department

北海道高等聾学校専攻科情報デザイン科「学科だより」令和６年度第６号 通巻 226 号

IDDNewsletter 9

September
2024

特集

記号とものの間～文字とその表現～

文字は、言葉の表記に用いられる記号としての側面だけではなく、それ自体が「形」「色」さらには「大きさ」や「位置」などのスタイルに係る属性を持っており、文字自体が造形表現の対象となり得るものです。今回は、記号とオブジェクトの間を常に往来することになる文字を使った表現の有り様について考えてみます。

特集

記号とものの間〜文字とその表現〜

文字は、言葉の表記に用いられる記号としての側面だけではなく、それ自体が「形」「色」さらには「大きさ」や「位置」などのスタイルに係る属性を持っており、文字自体が造形表現の対象となり得るものです。今回は、記号とオブジェクトの間を常に往来することになる文字を使った表現の有り様について考えてみます。

文字は、言葉を伝えるための記号であり、実生活に欠かせないものです。意思疎通や情報伝達で日々当たり前のように目にすることになりますが、本来の「言葉の意味を表す記号」という機能とは別に、知らず知らずのうちに、「印象」を受けていることは確かです。

例えば、何かの看板で「細い」という文字が特太ゴシックや江戸文字で力強く書かれていても細いという言葉の意味とはだいぶ離れた印象を与えます。「細い」ならば、明朝体あるいは行書体のほうが「細い」という言葉が持つイメージと近い印象を与えられるかもしれません。色に関しても同様に、例えば「熱い」という文字が、水色で書かれているよりは、赤や朱色で書かれている方がより熱い印象を与えますし、「速い」であるならイタリックで表現するのも良い方法でしょう。このように、文字は、文字どうしの違いを区分ける字体としての側面と、文字自体のデザインポリシーを表わす書体としての側面があります。ですから、言葉の意味から受ける印象と実際に視覚で捉える時に受ける印象が変わってくるのです。文字は、語義に寄り添いつつ、または反発しながら、言葉とは異なる枠組みで与えられる情報を持っています。それが形や色などで表現できる印象であり、その選択基準となる理念がフォントファミリーということになります。

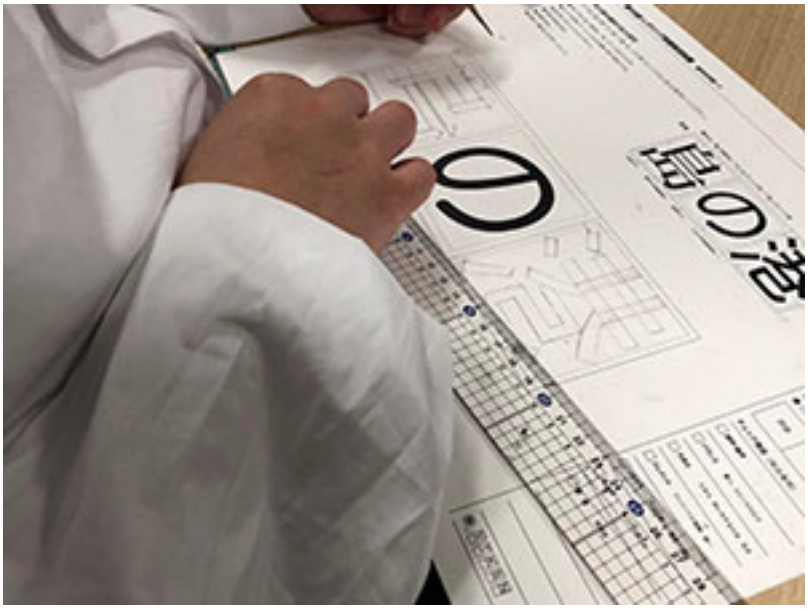
実は、美術の世界では、字体の表す語義と書体が与える印象が全く異なる文字をモチーフに描いた作品があります。岡田博の作品「RED」などは、美術の教科書にもよく載っているので御存知の方もいるでしょう。この作品でも伝えようとしているように、「言葉」と「文字」の間には相関関係はありますが、本質的に全く異なるものです。

文字は、言葉を視覚的に表すための記号であるが、同時にそれ自体が有意的なオブジェクトでもある。意味内容と現実を完全一致させることは極めて難しいが（例えば、「この七つの文字」などは一致しているが、これは極めて意図的で特別な例）、オブジェクトの持つスタイル属性の印象と文字の意味内容を一致させることで、全体にまとまった印象を視者に与えることはできる。

図　同属性間のスタイルの対比から見る印象変化

上記のことをふまえ、文字を表現する側の立場で考えるなら、見る人に与えたい感覚的な何かと印象が一致する、あるいは、あえて一致させない書体のコーディネート力が問われていると言っても良いのかもしれません。　IDDN

[授業風景]



＜レタリング検定に向けて＞

レタリングは、以前は職業技術として専攻科情報デザイン科のカリキュラムの中でも重視されていた内容ですが、現在は、DTP によるデータ作成と大判プロッタでの出力が主流となり、現実的にはあまり頻繁には用いられない技術となりました。検定試験の内容などは、現代の DTP や Web のフォントの仕組みを意識した内容になっており、知識問題の内容も、グラフィックデザインに関するベーシックな知識を問うものが多く、系統立てた学習を進めるうえで有意義なものになっています。

＜色彩構成授業風景＞

色という抽象的な要素を扱う科目であり、また、色の関係性や配色イメージなどいった不可視な要素も多く、特に重要な内容となっています。 ICT を活用した授業に欠かせない知識である、光や色料で分ける色の分類という観点で、RGB や CMYK についても学習します。

Contents

特集

2-3 **記号とものの間〜文字とその表現〜**

文字は、言葉の表記に用いられる記号としての側面だけではなく、それ自体が「形」「色」さらには「大きさ」や「位置」などのスタイルに係る属性を持っており、文字自体が造形表現の対象となり得るものです。今回は、記号とオブジェクトの間を常に往来することになる文字を使った表現の有り様について考えてみます。

Welcome to Information Design Department !!

北海道高等聾学校専攻科情報デザイン科「学科だより」をお読みいただきありがとうございます。

本校情報デザイン科では広く全国から学生を受け入れています。聴覚障がいがあり、高等学校や中等教育学校等の卒業生（卒業見込みを含む）であれば、どなたでも出願資格があります年齢も不問です。

授業料がかからないことに加え、低コストで、専門的な知識や技術を学べます。支援制度については、就学奨励費等の帰省や通学、食事等に関わるものがあります。また、寄宿舎があり、道内外関わらず入舎が可能ですし、土日祝日も開舎していますので遠方からの入舎も安心です。本校情報デザイン科に興味がある方は、ぜひ本校まで御連絡いただければと存じます。詳しくは、本校 Web サイトの情報デザイン科のページを御覧ください。

○専攻科情報デザイン科への入学説明と個別懇談について

次年度の入学説明や個別懇談等を御希望される方がいらっしゃいましたら、都度対応させていただきます。専攻科入学選考事務局に御連絡ください。（担当：堀、桑原）

情報デザイン科**学科だより**
Information Design Department

IDD**Newsletter**

September 2024

IDD**Newsletter** September 2024

発行人／北海道高等聾学校専攻科情報デザイン科「学科だより」編集チーム
発行／北海道高等聾学校
〒041-0261 北海道小樽市銭函1丁目5-1
www.koutourou.hokkaido-c.ed.jp

※ご意見、ご要望などにつきましては、上記 Web ページより電子メールでご連絡ください。